

第7期第2回 横浜市市民協働推進委員会 会議録	
日 時	令和7年9月9日（火）午後2時00分から午後3時50分まで
開催場所	横浜市庁舎18階 なみき6・7・8
出席者	齊藤ゆか委員長、新垣二郎委員、後藤智香子委員、関山隆一委員、高橋敬太郎委員、竹原和泉委員、森川正信委員
欠席者	菊池賢児委員
開催形態	公開または非公開、一部非公開等（傍聴者0人）
議 題	<p>報告事項</p> <p>ア よこはま夢ファンド登録団体の決定について</p> <p>イ 令和6年度横浜市市民協働条例に基づく市民協働の取組状況報告書について</p> <p>審議事項</p> <p>ア よこはま夢ファンド登録団体の抹消について</p> <p>イ よこはま夢ファンド登録団体助成金対象経費変更等申請について</p> <p>ウ よこはま夢ファンド登録団体助成金交付審査結果について</p> <p>エ 横浜市市民協働条例の施行状況の検討について</p> <p>その他</p>
議 事	<p>開会</p> <p>（齊藤委員長）ただ今より第7期第2回横浜市市民協働推進委員会を開会します。それでは、定足数の確認をお願いします。事務局からご説明をお願いします。</p> <p>（事務局）横浜市市民協働条例施行規則第8条第2項では、委員の過半数の出席がなければ会議を開くことができないと規定しています。本日、菊池委員がご欠席のため、出席が7名、欠席が1名、委員の過半数の出席があり、定足数を満たしています。</p> <p>（齊藤委員長）事務局からご説明いただいたとおり、定足数を満たしていますので、委員会が成立していることを確認しました。</p> <p>それでは、お手元の次第に従いまして議事を進行します。</p> <p>まず、本日の委員会は、横浜市の保有する情報公開に関する条例第31条の規定に基づき公開としますが、報告事項イは一般公表前で、9月12日の市会本会議終了後に市会議員に配付される資料になっており、また、審議事項アからウについては、公開で審議すると、自由な審議の妨げになることから、非公開とさせていただきます。ただこうかと思いますが、皆さん、いかがでしょうか。</p> <p>では、了承いただきましたので、これらの議題については、非公開といたします。</p>

	<p>前回議事録の確認</p> <p>続いて、前回の会議録を確認します。事務局よりお願いします。</p> <p>(事務局) お手元の会議録をご覧ください。</p> <p>前回の委員会は、令和 7 年 6 月 10 日火曜日午後 2 時 5 分から、市役所 18 階なみき 15 会議室で行いました。当日は 8 名の出席、欠席者は 0 名の定足でした。</p> <p>報告事項は、令和 7 年度市民局地域支援部事業の概要について、令和 7 年度横浜市市民協働推進センター事業計画についての 2 件、</p> <p>審議事項は、委員長選任・職務代理者の指名について、横浜市市民協働推進委員会における部会委員の指名について、横浜市市民協働条例附則に基づく条例の施行状況の振り返りについての 3 件をご審議いただいております。</p> <p>会議録の詳細については、事前に委員の皆様にご確認いただいておりますので、説明は割愛させていただきます。</p> <p>(齊藤委員長) ありがとうございます。ただ今ご報告いただいた前回の会議録について、何かご意見はございますか。よろしいでしょうか。では、こちらでよろしければ、前回の会議録についてはご確認いただいたということにさせていただきます。</p> <p>議 題</p> <p>(1) 報告事項</p> <p>ア よこはま夢ファンド登録団体の決定について</p> <p>(齊藤委員長) それでは、「報告事項ア よこはま夢ファンド登録団体の決定について」です。事務局よりご説明をお願いします。</p> <p>(事務局) 資料 1 をご覧ください。「よこはま夢ファンド登録団体の決定について」です。よこはま夢ファンドの登録の申請があった団体について、要綱の申請要件に照らし審査を行い、登録を決定したので、報告いたします。</p> <p>登録した団体は、特定非営利活動法人 K U S C、特定非営利活動法人あーとすたじお源、特定非営利活動法人 f o r y o u r S M I L E、特定非営利活動法人 H P R u n、N P O 法人はんなり和菓子ラボ、N P O 法人つるみままっぷの 6 団体になります。各団体の概要や活動分野については、資料のとおりです。なお、これらの内容は、8 月 25 日に開催した市民活動運営支援事業部会においても報告しています。事務局からの説明は以上となります。</p>
--	--

(齊藤委員長) 皆さん、ご意見はいかがでしょうか。関山委員と高橋委員が出席された委員会ということで、何かございましたら、お願いします。

(高橋委員) 当日、説明を受けて、今回の6団体について伺ったのですが、とても横浜の市民活動の広さというか、例えば、和菓子を伝統食材として捉えて、その普及に努めていて、そこに人が集まる工夫をして、居場所の機能も持たせようという取組をされていたり、私のような、地域福祉をやっている人間にとっては、こういう切り口で人が交流する場をつくっていただけることは非常にありがたいし、面白いなと思ったり、また、障害児、これは専門的なところでは、不登校の子とか高齢者の方の、専門性を生かしたところの研究をする団体があったりと、やはり非常に幅広いな、すごいなと思い、改めて感銘を受けたところでした。

(関山委員) 私は初めての部会ということで、横浜市内にはこれだけいろいろな団体があるということを感じましたが、私自身の知識にはないような世界で、福祉や子育てということに関して、団体登録をされている方がたくさんいらっしゃることに、まず驚きというか、さらに、本当に小さなことを丁寧にやっていらっしゃる方から、すごく発信力の強い団体までございましたが、私の知識の外側にあるようなことも含めて、正直なところ、勉強させていただきながら過ごさせていただきました。大変勉強になる、こういう事業が世の中にあるって、社会に貢献しているのだなということを改めて感じた時間だったと思っています。

(齊藤委員長) ありがとうございます。お互い実務をやっているので、刺激し合えるのはとてもよいことだと思いました。ほかにありますか。

(竹原委員) 情報提供ですが、はんなり和菓子ラボは、かつて相談にいらしたことがあります。和菓子というのはアレルギーフリーなものが多く、ケーキが食べられない方にも安心できるという視点もありますねと話をしました。和菓子という切り口で様々な可能性がありますね。

(齊藤委員長) ありがとうございます。何か根っこというか、入口の段階があって、いろいろな方々とコラボすることによって、一つのNPO法人として花開いていくという姿があるのではないかと思います。

≪報告事項イ及び審議事項アからウについては、
非公開議題のため会議録の公開はありません≫

	<p>(2) 審議事項</p> <p>エ 横浜市市民協働条例の施行状況の検討について</p> <p>(齊藤委員長) それでは、(2)「審議事項エ 横浜市市民協働条例の施行状況の検討について」事務局からご説明をお願いします。</p> <p>(事務局) 横浜市市民協働条例附則に基づく条例の施行状況の振り返りです。</p> <p>前回、市長から委員の皆様には市民協働条例附則に基づく条例の施行状況の振り返りを諮問させていただきました。このたび、審議の1回目として、令和4年度から6年度までの3年間の市民協働の取組状況等についてご審議をいただきたいと考えております。</p> <p>今回は今後の横浜の市民協働のあり方についてご審議いただき、第4回において答申(案)のまとめの確認を行う流れとなります。</p> <p>前回の令和5年3月にいただいた答申では、具体的な取組の提案として、今後の市民協働のあり方について、「提案1 地域情報の一元化・一覧化」、「提案2 しなやかな組織運営」、「提案3 つなぐ力の強化」という3つの提案をいただきました。</p> <p>今回は振り返りになるので、提案1・2・3のそれぞれの内容について、提案の概要から、答申をいただいた令和5年3月時点にどのような課題があったのか、この3年間、課題解消に向けてどのような取組を行ってきたのか、その取組からどのような成果が得られたか、取組を行ったが、まだ残っている課題は何なのか、そういった点をご説明させていただきます。</p> <p>こちら、「提案の概要」のページの左側に①、②と書いています。この後の「提案の概要」においても、この形で、段落ごとに付番をしており、それぞれの取組の右側に、どの提案の概要について取り組んだ内容か、番号を振っているので、ご参考いただければと思います。</p> <p>提案1の「地域情報の一元化・一覧化」の概要は、地域に対する興味関心を持った人が、必ずしも欲しい情報を手軽に入手できる状態になっていないことや、必要な情報にたどり着けるような支援や、テーマや分野を超えた横断的な活動ニーズとシーズのマッチングを促すために、地域情報の一元化・一覧化が必要であるというようなご提案をいただきました。</p> <p>令和5年3月時点の課題としては、情報を入手する側、市民の皆様からすると、地域の情報が知りたいときに、何をどう調べたら欲しい情報が手軽に手に入るのかが分からない。または、様々な媒体で情報が発信されているため、情報を手に入れるために手間がかかってしまう。また、手に入れる情報についても、情報を絞ることが難しいため、そういう中でのボランティア参加へのハードルが高いなどというような課題がありました。</p>
--	---

	<p>また、情報を提供する側、市民の活動団体側としても、SNSやホームページ等、様々な媒体で情報発信をしているが、なかなか効果を実感できないこと、または、団体によっては、ホームページの作成や管理ができず、情報発信をしたいが、なかなか行えない、または、どこに情報を掲載すれば参加してほしい層に届くのか分からないというような課題を抱えており、行政としても、活動に興味がある人のニーズと活動団体の情報をうまくマッチングできないことや、行政が市民に伝えることのできる情報が不足していることなどを課題として感じていました。</p> <p>そのため、それらの課題解消に向けた取組として、横浜地域活動・ボランティア情報サイトよこむすびを本格稼働しました。よこむすびは、市民活動団体や自治会町内会等が情報発信し、地域活動に関心がある方が情報収集できるポータルサイトとして運用しています。よこむすびの運用によって、市民の手元で手軽に情報が検索できるよう、市民活動団体等の情報が一元化・一覧化されること、または、市民がアクセスしやすい場で情報を効率的に発信できる、そして、ゆくゆくは地域活動の促進、新たな担い手の創出につなげるという効果を期待して行った取組となっています。</p> <p>実績にもありますとおり、令和4年度から検討を開始し、令和7年度現在、青葉区・都筑区で本稼働、今後、対象区を順次拡大していく見込みとなっています。</p> <p>この取組から得られた成果としては、情報を入手する側、市民の皆様にとっては、イベントやボランティアの情報を一覧で見ることができるようになったため、知りたい情報を得られやすくなったこと、また、その情報を横浜市が提供しているホームページで見ることができるので、安心して見ることができることなどが挙げられます。</p> <p>情報を提供する側、活動団体にとっては、団体のホームページやSNS、チラシがなくとも情報を掲載することができるようになったこと、今までの広報手段に加えて、よこむすびを活用することで、イベントやボランティア募集の間口を広げることができるようになったこと、情報が一覧で掲載されているサイトに載ることで、今まで団体だけではつながりづらかった年齢層へも周知ができるようになったこと、簡単に操作ができ、公開期間の設定などもできることから、こういったデジタルが苦手な団体にとっても、管理の手間がかからないことなどがメリットとして挙げられます。</p> <p>行政にとっては、よこむすびの稼働により、活動団体の情報を得ることができるようになったことが成果であり、今後、地区社会福祉協議会や水辺愛護会、ハマロード・サポーター等、登録できる団体区分についても順次拡大していきたいと考えています。</p> <p>一方、残っている課題としては、情報を入手する市民の側としては、よこむす</p>
--	---

びに掲載されている情報がまだまだ少ないため、自分の住んでいる区・近隣の区の情報をもっと知りたいと考えていらっしゃる方が多いことや、サイトを見るだけでは、具体的なボランティア参加のイメージが湧きづらいことから、ボランティア参加までのハードルをまだまだ感じるものが課題として残っています。

情報を提供する側、活動団体にとっては、よこむすびに情報を掲載し、ボランティアを募集しても、実際に担い手になるまでは時間がかかること、ボランティアを募集してみたいと考えているが、実際に短期のボランティアなどの受け入れ方が分からないということ、また、よこむすびに掲載する効果が分からないため、登録をためらってしまうなどの課題が挙げられています。

行政としては、今後、登録可能団体を増やしていく必要があることや、よこむすびをより多くの方に知ってもらうために、認知度を増やしていかなければならないことなども考えていますが、一方で、掲載情報を増やすことで不確かな情報が載るような、本来の目的と違う情報が載ってしまうこともあるので、サイト運営の安全性とのバランスを考える必要があることなどを課題として捉えています。

続きまして、提案２の、「しなやかな組織運営」についてです。

「提案の概要」は、まず、地域活動の人材確保に向けては、現役世代等をターゲットとした中短期のアプローチと、大学生など、学生などを対象とした、将来の担い手となり得る層をターゲットに据えた長期のアプローチの２つの視座を持つ必要があること、また、地域活動団体が新しい担い手を受け入れるにあたって、柔軟な発想や考え方をその運営に取り入れていく必要があること、担い手不足の課題への対応として、多世代が参加する地域運営や、ＮＰＯ法人等の多様な主体と連携・協働する取組を進めることが必要であることなどが提案として挙げられました。

なお、地域のプラットフォームとしては、様々な方々や様々なお立場の方、様々な活動団体がいらっしゃいます。提案２における組織とは、自治会町内会、地域で活動するボランティアグループ等の活動団体、ＮＰＯ法人等といったものを取組の対象として考えています。

令和５年３月時点の課題としては、自治会町内会においては、若い世代の加入が少なく、活動の担い手の高齢化や後継者が不足していることがありました。

また、ＮＰＯ法人等の市民活動団体においては、多くの団体が少人数で運営しているため、業務の属人化が進み、事務局長等一部の中心人物に負担が集中してしまっていること、新たな担い手の確保・育成が難しく、世代交代が停滞していること、コロナ禍等により活動が停滞してしまったことにより、ノウハウが引き継がれず、運営継続が困難な団体があることなどが挙げられていました。

自治会の加入率について、令和６年４月１日現在のデータでは、年々下降している現状がございます。

	<p>また、市内のNPO法人数についても、NPO法施行後、当初は右肩上がりが増加していたものの、令和元年度頃をピークに、約1,500団体程度の数を推移しているのか現状です。</p> <p>そのため、それらの課題解消に向けた取組として、よこむすびに取り組みました。こちらは、提案1においてもご説明しましたが、しなやかな組織運営に対する取組としても効果が期待されるものとなります。</p> <p>地域活動情報のデジタル化により、将来の担い手となり得る層へアプローチできること、新しい担い手の確保のため、緩やかなつながり等、参加しやすい活動を紹介すること、自治会町内会活動等へのボランティア参加を促し、活動の担い手となってもらうこと、こうした効果が期待される取組です。</p> <p>2つ目の取組としては、現役世代や学生の人材掘り起こしのための情報発信を行いました。こちらは、多様な主体の活動の協働事例を取材するとともに、取材した内容を市民協働推進センターのホームページにレポートとして掲載し、また、市民協働推進センターそのものを紹介する動画を作成・発信することで、各地域で活動活性化の促進を図ることや、主に若い世代を中心とした層をターゲットとして、人材の掘り起こしを行うことを期待して取り組んだ内容となります。</p> <p>実績としては、協働事例のレポートのホームページへの掲載のほか、若い世代は、スマホなどの画面で見ることが多いことから、Instagram等のSNSに掲載できるように、動画も縦型で作成をしました。</p> <p>細かな数字については、後ほどご覧いただければと思います。</p> <p>次の取組です。デジタル活用における企業・NPO等との連携です。こちらは、自治会町内会でのデジタルを取り入れた活動に向けて、デジタルツール・ノウハウを持つ企業・NPOからの情報共有の機会を設定したものとなります。自治会町内会のデジタル化を推進し、行く行くは自治会業務の効率化による役員の負担軽減や、子育て世代を含む若い世代の加入と参加の促進を狙ったものとなります。実績としては、展示・相談会を3会場で実施し、計118の自治会町内会が参加いただきました。</p> <p>次の取組です。多様な活動主体の連携事例を共有する交流会を開催しました。こちらは、地域活動や社会貢献活動等に取り組んでいる方を対象に、参加者同士の交流会を開催したものです。多様な活動主体同士のネットワークづくりを意識し、身近な事例での学びと交流機会の提供を目的としたものとなります。実績としては、13団体15名がご参加いただき、参加者からは、身近なエリアで様々な団体が活動していることを知ることができてよかったなどのお声をいただいています。</p> <p>次の取組は、組織運営について柔軟な発想や考え方を学ぶ場を、座学・ワークショップまたはセミナー・情報交換会で実施したものです。新たな担い手の獲得に向けて活動団体側に新たな発想・考え方を学ぶことを目的として、座学・ワー</p>
--	--

	<p>クシヨップ及びプロボノの実践活動の実施をしたセミナーや、若手人材が活躍する組織の事例発表・情報交換・交流を行う情報交換会を開催しました。これらの場により、悩みを抱えている地域活動団体が、新たな形でのしなやかな組織運営や事業継続のコツを、実際にうまくいっている団体等から学ぶことを期待して行ったものです。実績、各回の参加人数等については、資料に掲載のとおりです。</p> <p>これらの取組から得られた成果としては、自治会町内会としては、デジタル活用を考えるきっかけとなったということ、活動へのデジタル導入は、事務負担等の軽減や若い世代への情報周知を図る一助となったこと、自治会町内会以外の団体が、自治会町内会との連携を前提とした活動をするきっかけとなったこと、そして自治会活動に外部のボランティアが参加する窓口となるきっかけをつくることなどができたことなどが挙げられます。</p> <p>NPO法人等については、市民活動団体同士の顔の見える関係をつくる場を提供したことや、組織運営に関する学び、交流・情報交換の場があることで、活動継続に当たっての参考とすることができたこと、現役世代や中学生、高校生、大学生などが地域活動に目を向けたことなどが成果として挙げられます。</p> <p>こちらは、令和6年3月から7月に行った自治会町内会のデジタル活用・活動拠点に関するアンケートの結果を一部抜粋したものです。デジタルツールの活用状況は、「現在取り組んでいるもの」について、「LINEなどを用いた連絡・情報発信を行っている」が約51%など、既に多くの自治会町内会がデジタル活用に取り組んでいることが見てとれます。また、「今後、取り組みたいもの」の回答からも、同様にデジタル活用への関心の高さを見ることができます。</p> <p>実際にデジタルを取り入れた自治会町内会の中には、LINEを活用した情報伝達をはじめ、各自治会の活動状況に合わせて様々な手法を取り入れているとお伺いしています。</p> <p>一方、残っている課題としては、多様な主体と連携・協働することで課題解決に結びつけることができた事例が少ないことが挙げられます。また、自治会町内会としては、若い世代の加入も促進できるよう、デジタルツール等の活用の推進が必要ではあるが、浸透するまでに時間がかかるため、継続的な取組・支援が必要であること、NPO法人等としては、市民活動に興味のある現役世代や学生たちをターゲットとした働きかけの拡大が必要であること、組織の現状を改めて分析するなど、団体としての継続性や運営の今後の方向性、自身の団体が今後どのように活動していくのか、またはその活動の目的を達成するため、活動を継続するためにはどのようなことが必要であるのか、そして、それはNPO法人という枠にとらわれず、法人格の存在を含め、様々な柔軟な発想によって考えていくこと、また、そのことに対しての支援が必要であることなどが課題として残っています。</p> <p>提案3、「つなぐ力の強化」についてです。「提案の概要」ですが、つなぐ力を</p>
--	---

	<p>強化するためには、中間支援組織の人材育成機能やコーディネート力を充実させる必要があること、中間支援組織が中心となり、市民活動団体へのデジタル化支援、対話や交流の場づくりに取り組む必要があること、中間支援組織と協働する市役所職員の意識改革が必要なことなどが挙げられました。</p> <p>令和５年３月時点の課題としては、市民協働推進センターにおいては、他の中間支援組織と顔の見える関係はあるものの、中間支援組織同士の連携促進までには至っていないこと、各区市民活動支援センターへの日常的な支援や情報共有等を行っているが、より効果的な支援について検討が必要であること、各区市民活動支援センターにおいては、コーディネート能力について、個人のスキルにばらつきがあることや、各区の地縁団体とのつながりが薄く、そのことから、地域の課題やニーズ、地縁団体の活動などという地域のアセスメントを行う機会が少ないなど、地域情報が十分でないことなどが挙げられました。</p> <p>課題解消に向けた取組として、まず、他都市事例の視察や多様な活動主体の連携事例の取材・発信などが挙げられます。これは、他都市の好事例の視察や、好事例発信のために活動団体へ取材をし、市民協働推進センターが中心となってそれらを取材・発信することで、センター及び市職員の人材育成・コーディネート力の向上を狙ったものとなります。</p> <p>実績は、後ほどご覧ください。</p> <p>また、各区市民活動支援センター向けの取組としては、ネットワーク会議が挙げられます。これは各区市民活動支援センターに関わる職員のスキルアップ、ネットワーク強化のための研修となります。各区市民活動支援センターに関わる職員のスキルアップ、各区センター間のネットワークの強化、区域の活動団体のネットワーク構築の重要性ということを皆様が学習してくださることを期待して取り組んだものとなります。</p> <p>実績は、資料のとおりです。</p> <p>ミズベサロン・協働HUB事業は、様々な主体がつながるためのハブ機能として、センターが市内外の様々なステークホルダーと連携するための場を提供したものとします。</p> <p>ミズベサロンは、地域・社会課題を中心に、NPO法人・市民活動団体で集まり、活動内容の共有、交流会による多様な主体間での情報共有や対話・交流の場を設定したものであり、</p> <p>協働HUB事業は、中間支援組織間での横のネットワークを広げるために、相互の学び合いや協力体制の強化を図ったものとなります。</p> <p>これらの場を設けることで、公益事業を担う事業者や中間支援組織同士の相互理解と連携の強化を期待したものとします。</p> <p>各回の実績については、資料に記載のとおりです。</p> <p>協働研修は、市の職員を対象に、協働の理念や考え方を学ぶための研修となり</p>
--	---

	<p>ます。こちらは、市職員が地域の方々と共に課題解決に取り組んでいく必要性・重要性・効果等を学ぶことを目的に、各年度それぞれのテーマで実施しました。なお、この協働研修以外にも、新採用職員向けの研修や新任責任職向けの研修など、適宜協働の理念を学ぶ機会を設けています。</p> <p>これらの取組から得られた成果として、市民協働推進センターにおいては、多様な主体とつながる機会の提供を行うことができたこと、継続的にテーマに関心のある団体・個人の対話や交流の場を設け、そこから新たなつながりが生じていること、中間支援組織との対話・交流により培ったネットワークで連携事業の実施に向けて進んでいることや、協働研修の実施により、市職員の意識改革が進んだことなどが挙げられます。</p> <p>各区市民活動支援センターにおいては、若者など相談者を地域につなぐための手法を学ぶことができたこと、センターに登録する活動団体・個人間のネットワーク化を進めることができたこと、また、地域課題解決のためにはネットワーク化の必要があることの理解が進んだことが成果として挙げられます。</p> <p>令和6年度に、横浜市と市民等が行った協働事業は278事業です。市民協働条例が制定された平成25年度と比較すると約1.9倍となっており、年々増えてきています。市職員においても協働のマインドが浸透してきているのではないかと考えられます。</p> <p>一方、残っている課題として、市民協働推進センターにおいては、市との協働を求めている団体は、まだまだ潜在的に多くあると見込まれていることから、センターがその橋渡しの役目となれるよう、市民活動団体と市の両者へ働きかける役目をより強化する必要があることや、センターが持つコーディネートノウハウを各区市民活動支援センター等の参考になるよう、事例を交えて分かりやすく説明を示す必要があることなどが挙げられます。</p> <p>各区市民活動支援センターにおいては、多様な主体間の対話や交流の場づくりが必要なこと、地域のイベントや活動の場に出向く等、その区の情報を収集する機会を設け、区役所とセンターが相互に把握している情報を共有し、地域の特性や課題の理解を深める必要があること、そして、団体の活動と地域課題の解決がうまくつながる、そういう視点を持って市民活動団体の伴走支援を行っていくことなどが、課題として残っていると考えられます。</p> <p>共通して、各分野の中間支援組織・中間支援人材のつながりをより充実・強化し、市民活動団体の課題に応じて最適な中間支援組織を選定し、つなげる力が求められていると考えられます。</p> <p>提案1・2・3について、市民局を中心に、横浜市において、市民協働の課題解決に向けて取組を行ってまいりました。本日、皆様から、これらの振り返りについてご意見をいただければと考えております。事務局からの説明は以上となります。</p>
--	--

	<p>(齊藤委員長) ありがとうございます。前回答申における3つの提案と前回委員会でご意見をいただいた内容に基づいて、非常にきめ細かに分析を進めていただき、ご報告してくださったという流れになっています。</p> <p>今まとめて説明いただいた理由は、次のステップに移行していくために、皆さんがこの振り返りの全体を見渡した中で、どういうところが気になったとか、どういうところはまだもうちょっとなのではないかとか、前向きな意見、次のステップにつながるような意見を多数いただけたらありがたいと思っています。お願いします。</p> <p>(新垣委員) ご説明ありがとうございます。よこむすびの取組は非常にいいなと思うところですが、残っている課題として、よこむすび自体の周知というか、認知度の向上があると思うのですね。</p> <p>閲覧数とかをカウントしているのであれば、目標をある程度数値化した上で、例えばシティープロモーションの方たちとかは、どうやったらそのサイトをよく見てもらえるかとか、そういうノウハウをお持ちだと思うので、そのあたりを今後の、よこむすびの周知につなげていくためには、庁内連携という形で知らしめていくというか、そういう取組をするとよりよいのかなと感じました。</p> <p>(事務局) やはりサイトをオープンした当初は、大きく閲覧数が上がっていて、その後も徐々に増えている状況ですので、大きいプロモーションなどのタイミングで大きく上がる可能性があるため、今後も横浜市で持っているプロモーションを活用しつつ、場合によってはSNSなども活用しながら、まず、よこむすびを知っていただくことが第1段階として必要だと思っています。</p> <p>(新垣委員) ありがとうございます。自治会町内会の支援に関しては、割と多角的にやっていらっしゃる印象を受けるのですが、一方で、平たいというか、全体的、網羅的な支援になっているのかなというところで、自治会町内会のNPO化みたいなことを狙っているように感じるのですね。自治会町内会や地域社会の専門の先生方の話で言うと、人口が減っていくので、どう考えても、網羅的に自治会町内会を支援することはなかなか難しくなっているということがあります。</p> <p>その中で、例えば地縁団体の法人化のハードルの高さとかが議論になっているので、そういうところの支援の体制とか、あるいは自治会町内会の活性化に向け、要するに、人口が減少していくので、必ずなくなっていくところはあるのだけれども、その活性化に向けた支援みたいなものを考えていくと、地域社会の活性化みたいなテーマとしては、よりよいのかなと思いましたので、そこをちょっと意見として言わせていただきました。</p>
--	--

	<p>（齊藤委員長）ありがとうございます。皆さん、気がついたところからお願いします。</p> <p>（森川委員）今、脱炭素・GREEN×EXPO推進局の事業で、STYLE100というプロジェクトに関わっています。取材とSNS運用もやらせていただいているのですが、よこむすびは、InstagramやXみたいな、SNSはあるのでしたっけ、運用されていましたっけ。</p> <p>（事務局）いいえ、特にございません。</p> <p>（森川委員）了解です。サイトを、どうやって認知していただくかというところだと思うのですが、今はどういう手法で。広報よこはまとか、そういう手法でしょうか。</p> <p>（事務局）今は基本的に、登録団体が少ないことから、各区で持っている広報媒体などを使いながら、登録団体を増やしていくことを行っています。サイトをオープンしたときに、広報よこはまに掲載したり、あとは各区で持っているSNS等での発信は行っているのですが、それ以上のことができていない状況ですので、今後、18区に展開していくタイミングも踏まえながら広報を行っていきたいと思っています。</p> <p>（森川委員）ありがとうございます。STYLE100も、横浜市内の様々な魅力的なプロジェクト、団体、個人がやっている脱炭素や生物多様性、資源循環のプロジェクトを、GREEN×EXPOまでに100個発信していくというプロジェクトなのですね。今は31ぐらい公開しているのですが、やはり運用する中で、そんなに見てくれない。一般の市民の方々は、要するに課題解決しているプロジェクトを、喜んで見ないというか、まあ、当たり前なのですが、なので、広告を出す際に、例えば金沢動物園の象の排泄物が、実は堆肥になっていて、野菜がすごくたくさん取れるとか、ちょっとしたティップスとかを出すことで、すごくフォロワーが増えて、たくさんの人にまず見てもらうというステージに、今、上げようとしているのですね。なので、よこむすびの認知度をどうやって上げていくのかと。</p> <p>多分、一番大事なのは良質なコンテンツですよ。掲載している団体が多いことももちろんですが、その団体一つ一つがどういう取組をしていて、そこに市民としてジョインすることで、どういう体験と喜びを感じられるのかという、一つ一つの体験価値もつくりのいったほうがいいと思うのですよね。</p> <p>団体に任せてしまうと、ただ単に「何か若い人、来ないよ」みたいな意見し</p>
--	--

	<p>か、出てこないかもしれない。そうではなくて、どういう手法で、どういう形で発信したら、こういう人たちが参加してくれますとか、その支援を、例えば市民協働推進センターや各区市民活動支援センターが、自分たちの地域で努力している団体に対してアプローチしていくというプロジェクトにするとか、今後よこむすびをどう活用していくかというときに、もう少し戦略というか、プランづくりをしていくと、とてもいいのではないかなと。そのときに、せっかくデジタルが使えるので、どうやってこのサイトに流入しているのかは調べられる。そのキーワードをしっかりと追っていくとか、どの言葉でよこむすびに人が一番流入しているかが分かれば、それをひもといて、次の展開に生かせる。</p> <p>もしくは18区の中でこの団体・この地域が一番フォーカスされているということが分かるのなら、その秘密は何だろうかということも調べられるので、しっかりデータ化して、他区に展開していくとか、そういう手法を取られるといいのではないかなと思いました。</p> <p>本当に良質な協働コンテンツがそこから生まれるためにはどうしたらよいか、そして、そこからどういうものがよいコンテンツとして評価されているのかをしっかりと追っていくことが大事なのではないかなと思いました。</p> <p>（竹原委員）よこむすびですが、令和5年度青葉区での実証実験時、あおばコミュニティ・テラスの中高生、大学生の意見を求められました。大学生がファシリテートしたワークショップでは、どういうサイトだったらアクセスするか、どういうキーワードがあったらチェックするか、どういう見え方だったら見るかということを率直に話し合い、伝えることができました。</p> <p>その半年後に再度ワークショップを行い、よこむすびのサイトの変化等について検討しましたが、「何も変わっていません」という意見が多く出されました。</p> <p>学生たちにとっては、もっとがらっと変わらないと、自分たちはアクセスしないし、見るつもりもないという厳しい意見でした。</p> <p>さらに課題として、登録できる団体が社会福祉協議会等まだ限定的であることとともに、約3年間の動きが遅いことがあげられます。確実な情報、安全な情報をバランスを考え出すことも大事ですが、この目まぐるしく動く時代に、もう少しビビッドな情報を、たとえばGREEN×EXPOや脱炭素等、若い人も現役世代も何かしたいと考えたり、課題意識のある人にとって魅力ある情報がないのはもったいなく、参加のイメージが湧きにくいという状況だと思います。現在2区でのスタートアップ期ですが、18区に展開する前に検討されたいと思います。</p> <p>（高橋委員）それは難しいなと、すごく身にしみて、本当にそのとおりだと思いつながり聞いていて、すごく難しいと思っています。</p> <p>しなやかな組織運営で伺いたいのですが、自治会町内会の取組から得られた成</p>
--	---

	<p>果の、自治会町内会活動に外部のボランティアが参加するきっかけが、よこむすびによってできたというのは、具体的にどんなことだったのでしょうか。</p> <p>自治会町内会は、今後、人口減少で担い手が減っていく中で、ますますその業務について見直さなければいけないことは、切迫している課題なのです。業務を細分化して、外に出せるものは出すという取組が、本当にいろいろな形で行われている中で、もしよこむすびによって有用に行われていたとしたら、私の業務にとっても非常に有益なので、取組の様子をもっと聞きたいということと、その検証はどうなっているのかということを伺いたいです。</p> <p>もう一つは、自治会町内会活動のＩＣＴ化で、最近の様子としては、ＬＩＮＥは非常に有効みたいで、回覧板を取り込んで町内会の情報をみんなでやり取りすることは、町内会長さんたちに聞くと、結構使えるし、どんどんやっていきたいということでした。</p> <p>一方で、ＰａｙＰａｙはかなり大変みたいで、端末を持って町内会長さんがそれぞれのお宅を回るということで、結局、個別に回るから、「じゃ、私はお金払うわ」というような方も多いという話を聞くと、ＩＣＴに向いている業務と、そうでない業務というもあるのかなと思いつつ、特に情報発信では、ＩＣＴは非常にいいのだなと。ただ、実物が絡むものは、なかなかつらいところがあるのだなと思ったところです。</p> <p>（事務局）よこむすびについては、まだきっかけができたところで、実績的にはこれからだと思っています。やはり自治会町内会活動ということで、どこまで支援していくのかというところはあるんですが、でも、横浜市では、面として各活動を脈々と続けていただいておりますので、そこに少しでも尽力できたところと、よこむすびの一つ大きなミッションとしては、そこを視点に入れたところとです。</p> <p>実際、ここまでの皆様からのご意見でもありましたように、活動にジョインすることでどんな喜びと体験が得られるのかというところを、学生の方や若い方にも、どう発信できるかが一つポイントだと思っています。竹原委員にも今年度になってからもお話を聞きに行かせていただきましたし、齊藤委員長にもお話を聞きに行かせていただいたりして、学生の方々の声や、どういうことを求めてボランティア活動に入るのかとか、学生が本当に何を求めているのかをよくくみ取りながら、活動の体験記みたいなもの、実際に参加してみてどう思ったのかといった、レポートみたいなコラム的なコンテンツを、サイト内につくるイメージは持っていて、学生につくっていただくような、コンテンツも考えたいと思っています。</p> <p>そうしたコンテンツを、登録している活動団体にも見ていただいて、「こうすると若い人たちは喜んで来るのか」というようなコツやノウハウも、登録している</p>
--	---

	<p>活動団体にもお伝えして、魅力あるサイトづくりに生かしていく形にしていかな いと、ただ情報を掲載するだけでは成立しないということが、サイトを始めてか らようやく分かってきたところです。</p> <p>しっかり成就するように、これからそこを埋める作業をいろいろ工夫してい きたいと思っています。</p> <p>（関山委員）こんなに市役所の方々が努力をされて、研修をしていることは、正 直知らなかったですし、協働社会に向かって努力されていることそのものは、本 当にすばらしいなと感じました。</p> <p>情報の一元化ということで、よこむすびは、どんどん推進していただけたら、 いろいろな方々が生きやすいというか、何か情報を得て、周囲とのコミュニテ ィーを形成していけるのではないかというところはあると思います。</p> <p>このような取組をする際に、いわゆるマイノリティーというか、多数派の中 には入らないような人々が結構いて、そういう方々は、例えば市民協働推進セン ターは、結構まぶしく感じるのではないかなと思うのですね。</p> <p>都筑区で連携しているNPOでは、商店街の空きスペースに、夜に傾聴的な場 をつくって、来る人は問わず、ただ開いているみたいな場所もあって、そうい うところにふらふらと、いろいろな自分自身や家族の悩みみたいなものを打ち明 けるというようなことがあります。都筑区は特に転勤族が非常に多く、転入して からの子育てのコミュニティーづくりに大変苦労している区なので、そうした方 には入りやすい場がよいだろうし、「チラシは白黒がいいです」みたいな方もいま すし、何かあまりにもびかびかしているものは、「ちょっと足を運びにくい」とい う人もいます。</p> <p>市民活動運営支援事業部会でもコメントしたのですが、横浜市は、すごく小 さな団体も拾っていることにすごく感動したのですね。</p> <p>このような大きな市であっても、小さな場づくりは、そこを利用している方 々の数の総計ではなく、むしろ少数派といわれる人が、そこでその人なりのニ ーズを打ち明けられる場、様々な場があっていいのではないかと。</p> <p>そして、コミュニティーを形成する場そのものを、市ないし区は支援をして いくということを、今後、具体的に考えていけたらよいと思います。</p> <p>具体的に、子ども・子育ての分野で言うと、保育需要が非常に強くなっ てくると、なかなか共同保育が成立しづらくなってきています。</p> <p>ニュージーランドは、共同保育には80年ぐらいの歴史があり、国が支援を しています。プレイセンターと言うのですが、昨今オークランドという都市部 で、保育需要が非常に強まると、共同保育そのものの件数がだんだん少なくな っていくという傾向にあります。</p> <p>でも本来は、今の、保育ニーズが非常に高まっている中でも、地域で親同士が</p>
--	--

	<p>お互いの子どもたちを共同して育てる・支え合うコミュニティーを作っていくために、ありとあらゆる場があるといいということです。</p> <p>大きな場もいいですが、何となく「ああ、ここだったら私が入れるな」と思えるような場だったり、伝達の仕方だったりというものもあるといいのではないかなと。</p> <p>それを、数字で解決しようとする、多数派の中には入らない方々がそぎ落とされてしまうので、数字ではない方法で、そうした方々が幸せになるようなことも考えていくことが、私個人としても大事なかなと思っています。</p> <p>（後藤委員）ありがとうございます。皆さんからのご意見、本当にそうだなと思いつながりました。</p> <p>よこむすびは、本稼働されてよかった一方で、都筑区ももう実施しているということですが、私の大学に行くまでの動線には、広報は見られないので、動線上にあると目につくので、大学の周りとか、市営地下鉄とか、いろいろ発信されるといいのではないかと思います。オンラインだけで発信することプラス、オフラインでも伝えたほうがいいと思います。ただホームページ上に上がっているだけだと、「どうしようかな」と、一歩がなかなか踏み出せない人のほうが圧倒的に多くて、学生を見ているとそうなので、誰かが「これ楽しいよ」と一言言うだけで「じゃ、やってみようかな」と思ったりするので、オフラインの体験会、体験ツアーのようなものがあると、活動のイメージや楽しさが実感を持って伝わるので、オンラインとオフラインが組み合わせられると、いいと思いました。</p> <p>しなやかな組織運営で、地縁団体の難しさは本当にそうだと思いますし、私が住んでいる地域はPTAもなくなっているのですが、一方で小学校では、分担制やボランティア制で運営されるようになってきていて、そうすると、この日だけなら行けるみたいなこともあるので、それをどうマネジメントするという課題もあるのですが、特に子育て世代は、共働きが主流になっているので、そのあたりの社会全体の動きを見据えて、仕組みを変えていけるといいと思います。</p> <p>NPOや一般社団法人など、法人の形もいろいろ多様化しているので、いろいろな組織と連携できるといいと思います。民間企業等も関心を持っているので、企業連携なども大事かなと思います。</p> <p>（齊藤委員長）ありがとうございます。私も一委員として、意見させていただきます。</p> <p>まず、次なる戦略を考えるときに、統一した意見が必要だと思います。そのときに、しなやかな組織運営については、2020年の新型コロナウイルス感染症の拡大が一つの契機となり、本格的に市民活動やボランティア活動が停滞したことが、明白に</p>
--	---

	<p>なっています。</p> <p>2020年の社会生活基本調査の結果からは、もう明らかに、どんと市民活動団体や、ボランティア活動の行動者率自体が下がっています。NPOの活動が停滞し、もともと、高齢化や後継者不足であったのに、コロナ禍をきっかけに、活動をやめたということが起こっていると思います。</p> <p>NPO法人は1998年にできて、世界で言う2001年がボランティア国際年と言われており、ボランティアや市民活動に予算を使って、一生懸命育てて、NPOが成り立ったという時代がありました。その時の世代が今、NPOの代表などの中堅どころをやっているのかなと思います。今はもう予算も使わないで、一生懸命育てることをしていないのではということ、国全体の問題ですが、感じているところです。</p> <p>そこで、統一した課題があるならば、次に、我々が横浜市として、協働推進という大枠があるけれども、どういうターゲット層に対して、力を込めて育てていくのかとか、てこ入れをしていくのかを考えなければならないと。</p> <p>NPOの中でも、NPO一本だけではなくて、協働的な、テーマも複層的な部分はあるかもしれませんが、よこはま夢ファンド登録団体でも素敵な団体がいっぱい出てきているので、先ほど森川委員がおっしゃったように、それをどうやって優良な事例としてもっと打ち出していくのかという戦略があると思います。</p> <p>協働推進は横浜市の中でとても重要なポジションだと思うので、もっともっとイノベーションしているという様態を見せていく必要が、まずあると思います。そのときに重要なターゲット層を、我々は、次の委員会までに考えなければならないと思います。</p> <p>私がデータ分析したところによると、今、未婚の人と子どもがいない人が非常に多い時代に突入しています。なので、決して子どもだけのNPOということだけではなくて、子どもがいなくても、結婚しなくても応援するというスタイルですね。独身や未婚、あるいは子どもがいない人たちが、増えてくる時代に突入してきますので、そういう人たちも、「地域活動って楽しいね」ということを、遊びながら社会貢献じゃないですが、副業的に、オフの時間は、まちづくりの活動をするとか、環境整備をするとか、そういう時代に、生き方として突入してくるかなと思うのです。</p> <p>ですので、そういう見せ方で、自分の子どもがいなくても、近所の子どもたちと一緒に遊ぶ姿とか、そういうことをもっと生き方として打ち出していきながら、みんなで楽しいまちをつくっていくというイメージ戦略というか、森川委員がおっしゃったようなところをもっと打ち出して、重点的なターゲット層と、そうではない、自分たちが今そこに関わっていない人たちの存在の可能性についてもっともっとこれから、私たちは戦略的に打って出なければいけないと思っています。</p>
--	---

(竹原委員) 深くうなずきながら聞かせていただきました、ありがとうございます。やって楽しいとか、やってみようというモチベーションになるのは、地域の人との出会いがあった子どもたち・青少年だと思います。

あおばコミュニティ・テラスでは、町内会がまちの動画をつくりたいということで、高校生が動画をつくりました。また、かつては焼きそばのテントで学生が何人欲しいという、下請的な依頼が多かった夏祭りですが、今は内容を学生たちに任せてくれています。学生たちは輪投げという遊びの場をつくるだけでなく、小学生や保護者の声をきくアンケート調査をしていました。

このような体験は地域に対する愛着や信頼につながり、地域の様々な方と出会ったこと、主体的にイベントを企画運営したことは忘れられない思い出となります。さらに市民性の醸成につながり、次のこの地域、この横浜をつくる力に確実になっていくと思うのです。遠回りのように見えるかもしれませんが、このように次世代を育てていくことが大事だと思います。

そして私たち大人には、地域も行政も、コーディネート力や市民協働への理解が求められます。横浜のまちづくりの歴史のなかで、協働が旗印になっていました。原点を忘れず、学び合い、実践し、横浜の強みとしての協働の土壌をさらに耕していくのがこれからののではないのでしょうか。

あらためて次世代を育成することが近道であるということと、大人が学ぶことが大事であるということを私は申し上げたいと思います。

(齊藤委員長) ありがとうございます。ほかにございますか。では、よろしければ次に移りたいと思いますので、皆さん、多数の意見をいただきましてありがとうございました。

(3) その他

(齊藤委員長) では、その他について事務局からご説明をお願いします。

(事務局) 次回の委員会の日程について共有をさせていただきます。次回の委員会は12月16日火曜日午後6時から、また、第4回の委員会については、年明け3月10日火曜日の午後2時からの開催とさせていただきます。開催場所については、開会日が近づきましたら別途ご案内をさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

(齊藤委員長) ありがとうございます。スケジュールを見ていただきますと、今日が、令和4年度から6年度までの3年間の市民協働の取組内容を振り返る時間になります。

	<p>次の12月の委員会が今後の横浜市の市民協働のあり方について提案する場となり、非常に重要です。12月に提案するあり方を協議し、3月にはまとめているということで、ここの12月から3月は非常にハイスピードに動いてまいります。</p> <p>したがいまして、12月までの間に、向こう3年間の未来を、我々が、キーワードを含めて出していかなければいけないということになります。それぞれ選ばれた委員が、それぞれの専門領域に立ったご意見があらうかと思しますので、本当に遠慮なく、どんどん意見を出して、こういうアプローチがいいのではないか、もっとこのようにやったらどうか、こういうキーワードが横浜市の協働推進のこれからの売りになるのではないか、といったことについて、ぜひ知恵を絞っていただき、12月を迎えていただければと思います。</p> <p>今日は、横浜市役所の協働推進のメンバーが、一生懸命勉強して、一生懸命協議して、この資料をつくっているということを併せて、私のほうから報告させていただきたいと思います。本当にいっぱいのお力添えをありがとうございます。</p> <p>閉会</p> <p>(齊藤委員長) では、今日はこれで終わりたいと思いますので、閉会させていただきます。ありがとうございました。</p>
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ・資料1 : よこはま夢ファンド登録団体の決定について ・資料2 : 令和6年度横浜市市民協働条例に基づく市民協働の取組状況報告書 ・資料3 : よこはま夢ファンド登録団体の抹消について ・資料4 : よこはま夢ファンド登録団体助成金対象経費変更等申請について ・資料5-1 : よこはま夢ファンド登録団体助成金交付審査結果について ・資料5-2 : 令和7年度第2回よこはま夢ファンド登録団体助成金交付審査結果 ・資料6 : 横浜市市民協働条例附則に基づく条例の施行状況の振り返りについて